

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	野外生物学実習				
担 当 者	深川 幹				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>本講義では、学校や園で必要となる技術や、自然との関わり方について考えることを目的に、年5回の集中講義形式で学びました。子どもたちの自然への興味・関心は、身近な大人の影響を大きく受けます。この授業が、皆さん自身の自然との関わり方や、その伝え方を見つめ直すきっかけになれば幸いです。</p> <p>さて、いただいたコメントのすべてに個別の返信はできませんが、第4回の開始時間についてご意見がありましたので、こちらについて回答します。</p> <p>第4回では、本来の集合時間前に多くの方が集まっていたため、先にいたメンバーには事前説明を行いました。この対応により、ワークショップ実践の準備時間に差が生じ、不公平ではないかとのご指摘がありました。</p> <p>今回の対応によって、本来より30分程度長く準備できた方がいた可能性はありますが、もとも予定されていた準備時間が短縮された方はいないと認識しています。</p> <p>本講義の評価はルーブリックに基づいた絶対評価で行っており、学生間での相対評価は行いません。与えられた時間内で十分な活動を行い、それを正しくレポートに記述・提出できていれば（←ここが最も重要！）、評価に影響が出ることはありませんので、ご安心ください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	物理学概論				
担 当 者	田中 達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.8	4.9	4.9	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>本授業の目的は、中学校理科物理領域における基本的な法則や概念を学ぶことを通して、自然現象を理解するための考え方を習得することでありました。また、それぞれの法則の全体系の中での位置づけや相互関係を把握することによって、物理をより深く理解することを目指すことでありました。</p> <p>授業におきましては、物理学の基礎的な事項について、事前・事後学修に丁寧に取り組まれ、理解されようと努力される姿が印象的でした。また、Tokiwa's ラーニングにも積極的に取り組んでおり、大変素晴らしいと感心しました。</p> <p>この授業を通して、皆様が物理学に対する関心や知識を深めることができたとしたら、とても嬉しいです。物理学は、自然界の法則や現象を理解するための素晴らしい学問です。物理学を通して、世界をより豊かに感じることができると信じています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	理科概論				
担 当 者	田中 達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.3	4.8	4.8	4.7	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>本授業「理科概論」では、小学校理科の基礎となる科学的な概念や原理を理解し、それらを教育に応用できる力を身につけることを目的としていました。また、科学的な思考方法や探究的な学習の重要性を理解し、実際の授業設計に活かすことも目標の一つでした。</p> <p>皆さんの評価を拝見すると授業内容や教材、指導の方法といった点で高い評価をいただきました。これは、講義と実践的な学習を組み合わせる本授業の方針が、皆さんの学びを支えるものとなったためであると考えています。また、皆さん自身が積極的に学んでくださったからこそ、「いい授業」を共に創ることができたのだと思います。</p> <p>一方で、授業外での学修時間に関して、個人差が大きいことが見られました。グループでの演習を導入したため、大きな差が生まれたのだと思います。ここについては改善を考えたいと思います。</p> <p>理科教育は子どもたちの好奇心や探究心を育む大切な分野です。皆さんがこれから理科の指導者として成長していく中で、今回の学びを基盤として、さらに深い探究を続けていくことを期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	理科実験 I				
担 当 者	田中達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	4.5	4.7	4.7	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>本授業では、小学校理科における実験の基礎を学び、科学的な探究の方法や実験の手順、データの扱い方を身につけることを目的としていました。授業評価では、授業方法や学修成果といった点で高い評価をいただき、皆さんが安心して取り組めたことを嬉しく思います。</p> <p>一方で、「授業内容の理解」「基本的な知識・スキルの定着」に関する項目では、もう少し深められる余地があると感じました。今後は、実験の結果をより詳しく考察する時間を増やしたり、実際の授業でどのように活用できるかを具体的に考える機会を設けたりすることで、理解を深められるよう工夫していきます。また、授業外での学習のサポートとして、事前学習やレポート作成のポイントや参考資料を提示することで、より効果的に学べる環境を整えていきたいと思えます。</p> <p>理科実験は、単に実験を行うだけでなく、子どもたちに「なぜそうなるのか？」を問いかけ、科学的な思考を促す力を養うことが重要です。今回の授業で学んだことを、今後の実習や授業づくりに活かし、理科の楽しさを伝えられる先生を目指してほしいと思えます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	国語				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	5.0	4.9	4.8	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>国語の授業づくりについての基礎基本を講義しました。今求められる国語力（言語力）は、自分で考え、判断し、表現する言葉の力を持つことです。そのための「言語活動」を設定すること、学ぶ必然性のある授業デザインをすることを学びました。アンケートの中に、授業づくりの方向性がわかったという声がたくさんありました。3年生になって、実習指導や指導法の授業で模擬授業をたくさん行います。そして教育実習では、児童生徒の前で「わかる」「楽しい」授業を実践しなければいけません。その時にこそ、この授業で学んだ知識を活用して、授業づくりをしてほしいと思います。今後も学び続け、授業づくりに取り組んでいきましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育・教育実践演習 I				
担 当 者	山下 柳原 大城 深川				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.6	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>この授業は、これからの進路を考えること、自己の適性を見つめること、大学における研究や探究の基本的な知識・技能を身につけることの3分野を中心に学ぶことになっていました。夏にかけての見学実習では、将来の職場を体験しました。KIT 実習では、子どもとの触れ合いを体験しました。レポートの書き方やスライド発表の仕方等についても基本的なことを学びました。これらは全て、2年生以降の専門科目になっても必要となるコンピテンシーです。専門科目を受講する際にもこの授業で身につけたことを活用し、皆さんの夢を実現するためにこれからも主体的に取り組んでいってください。期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	インターンシップ A				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.5	4.6	4.9	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>スクールサポーターの経験は、教育現場を直接見聞できる貴重な機会であったと思います。現場の良い点だけでなく、課題についても学ぶことができたはずですが、一方で、スクールサポーターの活動期間についての説明が不足していたという指摘がありました。次年度に向けて改善していきます。</p> <p>その上で、皆さんに意識してほしいことがあります。報告・連絡・相談の順番を「ソウレンソウ」と覚えることがありますが、実際の順序は 相談 → 連絡 → 報告 です。これから教育実習など、より責任のある対外的な活動が増えていきます。自分の判断で行動する前に、必ず相談し、その後の連絡をしっかりと行い、最後に報告を徹底しましょう。これは、社会人基礎力において最も重要なコミュニケーションの取り方です。</p> <p>また、小中学校の現場からは「即戦力として役に立った」という評価が多く寄せられました。その一方で、「単位さえ取ればよい」という消極的な態度が見られたという指摘もありました。皆さんには、児童生徒と向き合う時間を大切に、常に主体的な姿勢で臨んでほしいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	介護等体験				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.3	4.6	4.6	4.6	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>本来なら社会福祉施設、特別支援学校での実習でした。感染症対策のため机上での学びになりました。聴覚障害の理解について文科省の資料を用いての講義でした。これから皆さんが会う児童生徒たちの中には、支援を必要とする子どもたちがいます。そうした子どもの困り感を把握し、支援の方法を複数考え、実践し、評価し、うまくいかないところは改善するという過程を常に意識してほしいと思います。それぞれの職場や生活でこの学びを生かして行ってください。期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	保育・教育課題研究Ⅲ				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.8	5.0	5.0	4.9	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>この授業では、義務教育コースの皆さんは、STEP プログラムで4年生と協働学習を行い、KIT で座談会を開くなど、教職に就くための準備を積み重ねてきました。評価を見ると、皆さんにとって充実した学びの時間となったようです。</p> <p>そして、いよいよ 教員採用試験 ですね。これまでの努力を自信に変え、自分の夢の実現に向けて、一歩ずつ前進していきましょう。試験に向けては、お互いに切磋琢磨しながらも、協力できるところは助け合い、共に乗り越えていくことが大切 です。</p> <p>これまでの学びは、決して無駄にはなりません。自分を信じ、最後まで全力を尽くしてください。皆さんの挑戦を心から応援しています！</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	教育原理				
担 当 者	光成 研一郎				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.0	4.1	4.1	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>今年とは昨年度と比較して 0.4 ポイント近く授業評価が下がりました。記述欄で改善点を記述してくれた学生は少なかったですが、パワーポイントの穴埋めに学生が記述する時間が短いとありました。これは例年指摘されていることなので、教員として意識はしていますが、だいたいこれくらいで記述できるであろう（全体の記述の雰囲気も見て）ところで進めているので、全員がこれくらいのスピードで、と思うところに合わすことは難しいです。教員採用試験や公立試験を意識して、知識教授型の授業になるところもありますが、今年からグループワーク、その発表を取り入れました。このことに関しては肯定的な記述がありました。来年度も発表テーマの内容を少し増やすなど改善して実施したいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教育方法・通信技術活用論				
担 当 者	光成 研一郎				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	3.7	3.7	3.7	3.8	
学生へのメッセージ					
<p>昨年度と比較して 0.7 ポイントから 0.6 ポイント授業評価が下がった。大きく授業内容や方法を変えたわけではないので、記述欄を参考にしたいが、ここでもその理由は把握できない。例年マナバ上の小テストの解答方法についていろいろ意見があるが、その場での学習を意識して解答しているので、答えを配ってほしいという要望には応えかねる。昨年度の授業評価は良かったので、来年度の実施と授業評価結果を待って、改善につなげたい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	防災教育実践				
担 当 者	光成 研一郎				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.5	4.9	4.9	4.9	4.9	
学生へのメッセージ					
<p>今年初めて開講した科目であったが、小学校現場での教育実践や JICA 関西で、幼児・児童に防災教育を実施する機会が提供ができた。学生はやはり実践の場があるといつも以上に真剣に調査、計画、実践する。特に今年を受講生はまじめに取り組んで、外部の評価もとても高かった。彼らのような卒業生を輩出出来たことをとても嬉しく思う。保育・教育現場でのこれからの活躍にも期待したい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	教職実践演習 A・B				
担 当 者	中西利恵、大森雅人、牛頭哲弘、山下敦子、山田秀江、柳原利佳子、京極重智				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.6	4.5	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>本科目の授業評価は、学科平均よりすべての分野において高くなっていました。本科目は他科目とは異なる授業方法で展開しますが、いずれの分野も高評価であったことから、みなさんが熱心に取り組まれた様子がうかがえ、担当教員一同うれしく思います。</p> <p>4年生による「実習を伝える」発表とその後の分科会に対する2年生の評価はとても高かったです。第一部の発表も良かったですが、第二部の分科会については各グループがいろいろ工夫し準備していました。授業教材や実習記録等、実物を用意し、板書や壁面も活用し2年生がイメージしやすいよう環境を準備されていました。そのため、2年生からは各グループの提供内容や提供方法に対し、具体的でわかりやすかった、知りたいことを知ることができた、役に立ったと、総じて4年生への感謝や尊敬がうかがえました。皆さんの「実習を伝える」のふり返しシートにも、2年生へ伝えることのやりがいや、自身の学びが深まったこと、学年を超えた交流の意義が記述されていました。</p> <p>また、「実習を伝える」の2年生評価方法の変更については、4年生の教員養成コースの代表学生が作成してくれた Google フォームでのアンケートのおかげで、スムーズで効率のよい実施と振り返りが可能となりました。集計結果を全学生が共有できるよう対応していただき、教員養成コースの代表学生さんには心より感謝申し上げます。</p> <p>13・14回目のみつつん先生による「カラフルな姓の世界～みんな違って当たり前～」の講義は、例年高評価ですが、本年度についてもみなさんのコメントから多くの気づきや学びがあったことがわかりました。みつつん先生もとても手応えを感じておられました。みつつん先生の授業で感じたことを社会に出ても時々思い出してください。牛頭先生の授業についても高評価の自由記述がありました。</p> <p>最終回のレポートはみなさん丁寧に4年間を振り返り、自己分析、自己評価を実施し、文章化されており、感心しました。4月から社会人ですが、どうぞここでの振り返りを忘れないで歩んでいってほしいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育・教育実践演習Ⅱ				
担 当 者	中西利恵、山田秀江、近藤みづき				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.4	4.2	4.3	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>担当者（近藤・山田・中西）別でのクラスごと授業や、8・9月期の保・幼・施に分かれての学外実習、4年生から実習について具体的に情報収集するジョイント授業、KIT での2回の実習、各種実習の事前事後指導、収集した記事を題材にしたグループワーク等、1年間を通してさまざまな形態で授業を実施しました。「この授業に意欲的に参加した」の評価は学科平均より0.16ポイント高く、全体的に積極的に取り組んでいたと思いますが、Bクラスの出席状況や取り組み姿勢が比較的良かったです。</p> <p>後期のKIT実習は、KITあそびのひろばが4カ所に増えたことにより2回の実習が可能となりました。自由記述の『よいと思った点』に、「普段あまり関わるることができない保護者の方と関わる機会があり、様々な話を聞くことができた。」とありました。1年次・2年次から、本学だからこそ実施できるKIT実習での体験から、学びを深めてほしいと思います。2回目のKIT事後指導で実施した、実習先の異なるメンバー構成でのグループワークは成果があったことが自由記述からもわかります。今後も継続していきたいです。KIT実習だけでなく各種実習の経験を3年次以降の本実習に活かしてください。そして、振り返り（自己点検・自己評価）の際にもっとも多く上がっていた、手間をかけた実践は子どもにも保護者にも感動を届けられるという体験を踏まえ、今後の実習では丁寧な準備を心掛けてほしいです。</p> <p>新聞の切り抜きも多く多くの学生ががんばって取り組んでおり、まとめ方も工夫し、調べ学習等、学びをひろげている様子がうかがえました。来年度の受講生の見本になるような内容がいくつもありました。</p> <p>4年生とのジョイント授業においては、2年生による評価用紙の自由記述では、総じて「3年次の実習に向けて準備ができてよかった」と感想が述べられており、特に、第2部の分科会では、時間いっぱいまで熱心に4年生から情報収集する姿がみられました。</p> <p>前期・後期を通して実施した各種グループワーク、そして最終段階で実施する学びの成果としてのポートフォリオを通したグループワークとそのまとめ報告から、多くの学生が自己と他者の思いや考え、表現の違いに気づき、自己をふり返り課題について抽出し、次への学びへ向かおうとする姿勢がみられました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育内容総論 A・B				
担 当 者	中西利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>この授業では、まず「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」での保育内容に関する共通する重要事項について理解を図りました。3種類の解説書を比較して読み込みながら、内容の理解を深めました。皆さん、マーカーで印を付けたり、付箋を付けたりと工夫して確認作業をしていましたね。そして、指針や要領の解説で示されている園での具体的な場面や子どもたちの様子については、実際の園で撮影した動画を教材として使用し、理解を深められるようにしました。園生活での子どもたちの映像教材を熱心に視聴していました。</p> <p>また、授業方法として第3回目からは乱数表による異なる構成メンバーでのグループワークを毎回実施しました。子どもとのかかわり方等に関する課題を設定し、グループ内で意見を出し合い、方法を提案する等の取り組みをしました。自由記述からも「今まで話したことがない人と話す」ことで、様々な意見に触れ、学びを充実させることにつながったようでうれしいです。</p> <p>さらに、授業の後半30分では「保育内容を深める遊びや児童文化財」をテーマに、多種多様な児童文化財（素話、絵本、紙芝居、手遊び・うた遊び、折り紙、パネルシアター、ペープサート、わらべうた遊び、昔遊び（伝承遊び）、鬼ごっこ、様々な玩具での遊び等）の中から、1・2年次の「保育・教育実践演習Ⅰ・Ⅱ」での夏の短期間実習でも実践可能な教材をピックアップし、演習活動を実施しました。「保育・教育実践演習Ⅰ」と科目間連携を図り、KIT実習で実践する低年齢児対象の読み聞かせから演習を開始しました。その他に、幼児対象の読み聞かせ、折り紙を活用した製作や遊び、そして手遊び・うた遊びを取り上げ、毎回グループでの実践や発表に挑戦しました。『この授業でよいと思った点』の自由記述に、「実践の現場で役に立ちそうよかった」や「手遊び、折り紙、素話、絵本、すべてとっても楽しかったし、将来使えるところがとてもよかった」とあり、演習活動の成果がうかがえました。</p> <p>模擬保育「素話」の実践においては、多くの学生が練習をして本番に臨んでいるようでした。皆の前で一人で実践することは初めての学生がほとんどだったようです。恥ずかしいですし、とても緊張したと感想を述べていました。全員が頑張って最後までやり遂げました。ただ、練</p>					

習の度合いに差があることは歴然で、今後は丁寧に準備に取り組むことで、さらに実践力を向上させましょう。

2年生以降、保育関連の専門的な科目が一気に増えてきます。「保育内容総論」での学びを基盤に、各分野の学びを深めていってください。3年次から始まる本格的な実習に向けて、しっかり準備をしていってほしいと思います。

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育者論				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	4.2	4.3	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は「保育者」という仕事の本質や特質を捉えるとともに、法的な位置づけなども理解できるよう授業を行いました。また、幼稚園の実践動画や保育所の一日の流れを示した事例などを用いて、できるだけ具体的に保育者の仕事内容や役割が理解できるように努めました。さらに、可能な限りグループワークを取り入れ、対話を通して質の高い保育が実践できる保育者について考察を深められるようにも努めました。また、昨年度の反省を踏まえ、グループワークのテーマを工夫し、十分な時間を確保したことで、自由記述で「グループワークを通して考えの幅が広がった」との回答がありました。また、できるだけ具体的に保育者をイメージできるよう、私自身の保育実践を元にした事例を多く語りました。それにより、よりリアルに保育について考えることができたようで、自由記述にそのような回答がありました。</p> <p>よりよい保育者とはどのような保育者なのか、どんな保育者になりたいのか、皆さん自身がこれからの学びの中で探求していくきっかけになる授業にしたいと考えています。今後も様々な役割を求められている「保育者」について理解が深まるよう、講義とグループワークをバランスよく取り入れながら授業を工夫していきたいと思ひます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育・教育課程論				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.5	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>本授業では幼稚園の教育課程や保育所等の全体の計画と様々な指導計画について説明を行いました。保育は入園から修了までの長い見通しと日々の子どもの姿の両方を捉えて計画を立てる必要があります、その考え方や計画立案について講義を行いました。</p> <p>さらに、設定保育の指導案を個々に考えたり、グループで年間の指導計画に基づいた月々の計画立案とその内容についての発表を行ったりと、できるだけ能動的に授業に取り組めるよう工夫しました。</p> <p>指導計画立案は子どもの発達理解と保育のねらいと内容の理解を踏まえて活動内容を考え、適切な環境構成や援助方法などを検討しなければなりません。学生さんにとっては、難しい内容ではありますが、本授業を通して指導案について学べてよかったとの自由記述の回答が複数あり、理解を深めることができた方もいることがわかりました。</p> <p>今後も教育課程等の全体の計画と長期指導計画、短期指導計画について個々の理解に応じた指導を工夫し、実習等で役立つような実践力（指導計画を立案する力）を身につけられる授業方法について検討していきたいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子ども家庭支援論				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.3	4.5	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>皆さん、子ども家庭支援論の学び、お疲れさまでした！</p> <p>この講義を通じて、子どもと家庭を取り巻くさまざまな課題や、それを支える制度・支援の在り方について深く学ぶことができたのではないのでしょうか。知識を得るだけでなく、「子どもや家庭にとって本当に必要な支援とは何か？」を考える機会になったと思います。</p> <p>支援には、専門的な知識や技術だけでなく、相手の気持ちに寄り添う姿勢や、多様な価値観を受け入れる柔軟性も大切です。皆さんがこれからどのような道に進んでも、この学びを活かし、一人ひとりの子どもや家庭に温かく向き合える存在になってほしいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	乳児保育Ⅱ				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.5	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>前期に比べ、多くの学生さんが後期に保育者になるという自覚を持てるようになったと成長を感じることができました。授業中、熱心に取り組んでおられ、授業の意図を理解して受講してくださっていることがわかりました。</p> <p>クラスの中で多くの製作物を作ってきました。模擬保育もいろいろな人のものを見る機会が今までにあったと思いますが、ご自分の保育を振り返りどのように感じられましたか。</p> <p>保育にも流行がある部分と、流行に流されない部分があります。歌や手遊びなどは、年々変化しています。作成されたものや歌・手遊びなどについて、ご自分が幼いころに教えてもらったものだけで模擬保育や製作物など、授業を乗り切ろうとされていた方もいました。</p> <p>保育者は保育のプロですから、素人が子どもをあずかるのではないということを心にとめ、歌や手遊びも含めた教材についても研鑽できる人であってほしいと願います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	障害児の理解と支援Ⅱ				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.5	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>授業内で映像を取り入れることによって、より理解が深まったと回答した方が複数名おられました。保育の現場で対応に困られることが多いのが障害児対応です。障害も多岐にわたりますので、授業内で教わったことだけで、保育者として乗り切れると思わないでくださいね。</p> <p>座席について改善が必要だと書かれていた方がおられました。授業内で私語をする学生さんがいるクラスは指定席にしました。多くの学生さんが授業を熱心に聞いておられましたので、授業の改善が必要という意見はありませんでした。私語をする学生さんの授業に対する姿勢の問題です。私語をする学生さんの近くに座ってしまったばかりに授業に集中できなかったということが生じてしまうと、その授業回の保証ができません。指定席にすることにより、クラス間で平等ではないと書いておられた学生さんがおられましたが、真面目に聞きたい学生さんを守るという意味合いもあり、平等に授業を聞く権利を保証しました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	保育実践演習				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.5	5.0	5.0	5.0	4.9	
学生へのメッセージ					
<p>回答数人数が少ないのですが、主体的に考える活動が多く、自分にとってとても勉強になる活動が多かったです、という回答もあった。</p> <p>各担当教員によって出された課題について、指定された日までにグループで行う活動も多かったと思います、さすが4年生と感ずるぐらい、しっかりと取り組むことができていました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	子ども家庭福祉				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.6	4.6	4.6	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>好評価をいただき、お礼申し上げます。自由記述にある通り、自身の自虐的コメントを控え、嬉しいコメントに甘んじず、最新の情報と教授内容の工夫に努力を続けてまいります。また、受講生から寒いと言われようとも、空気の入替えに配慮したいと存じます。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	保育実習指導 I AB				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.1	4.0	4.4	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>今後も、社会福祉施設実習（保育実習 I）に適した施設の開発、臨地への準備に配慮して、実り多い実習となるよう努めてまいります。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもと身体表現				
担 当 者	近藤みづき				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.3	4.4	4.4	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>皆さんがおおむね満足する授業が展開できたかと感じています。これも皆さんが積極的に授業に取り組んでくれたからだと感謝しています。</p> <p>自由記述欄をみると「一人一人に個性があるのだと理解した上で表現活動に取り組むことができた。」「身体表現のことを否定せず、いろいろな場面に気づいて表現のことを褒めているのがいいなと感じた。」というコメントがありました。一方で「準備時間が短いと感じた。出来上がりから練習して本番までの時間が少なくハードだった」「また、練習や準備などやっている人とやっていない人で差が激しいと感じた。やっている学生の負担が大きくなるため、役割を決めるのもいいのかなと感じた。」という意見がありました。</p> <p>身体で表現する楽しさを感じてもらえたことは、とても嬉しかったです。また、作品創りの時間ですが、皆さんに身体表現の基礎をインプットしてもらった時間や発表の予備の時間を考えると、増やすのはなかなか難しいのですが、次年度にどのような工夫ができるか検討します。</p> <p>「子どもと身体表現」の授業で皆さんが創った身体表現作品は、どれも趣向を凝らした本当に素敵な作品ばかりでした。小道具を極力少なくし、身体だけで表現させた作品や、音楽や衣装を工夫した作品がありました。また、皆さんのふりかえりコメントも的確なものが多かったです。今後、この経験を子ども達の表現活動につなげられることを期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教育方法・技術論				
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	5.0	5.0	5.0	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>本授業は、養護教諭の教育実践における教育方法に焦点をあてて、教育方法の開発や改善等に行うことができる理論と方法を理解して、身につけて頂くことを目的としていました。そのために教育方法に関する理論的・実践的な学習を行いました。その際は、日本の教育方法に関して幼児教育段階から高等学校教育の段階までの特徴を俯瞰するとともに、教育方法開発の基礎となる理論や考え方、教育方法を改善するための方法に関して考察し、さらに、ICTを活用した教育方法や教材作成、教育的機能を持つ学習環境の活用等の実践的内容についても取り扱いました。</p> <p>養護教諭にとっての教育実践とは何かを理解して頂き、その実践をより効果的にするための教育方法を開発し改善することができる能力の育成を目指した授業でした。最終レポートの記述を拝見すると、おおむね目標とした能力が育成できたのではないかと考えています。毎回提出されたレポートを読むことは、私の楽しみでもありました。</p> <p>授業方法に関しては、一方的に知識を伝達する授業ではなく、できる限り皆さん自身に考えていただくように多くのグループワークを取り入れました。この授業方法は、(授業の中でも触れましたが) 伝達できる知識の量は少なくなります、自身で考えることで、心に残ったことも多かったのではないかと考えています。</p> <p>授業の中で何度も話しましたが、養護教諭の教育実践は、さまざまな可能性を持っています。児童・生徒の一生の健康をプロモートする要の存在として、ご活躍いただけることを心より期待致しております。</p> <p>授業は終わりましたが、教育方法に関して何かお聞きになりたいことがありましたら、遠慮無く研究棟5階の研究室にお越し下さい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子どもと環境				
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.6	4.7	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>半年間の受講、お疲れ様でした。これからの皆さんのご活躍を、心から願っています。</p> <p>最終試験レポートで皆さんに課した課題は、この授業を通じて特に考えて欲しかったところです。卒業された後も、さまざまところで活かして頂ければと思います。</p> <p>テーマ①の「予想される未来社会の姿と、そうした社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力」に関しては、これからますます真剣に議論しないといけない課題だと考えています。授業の中でも触れたと思いますが、最近では生成 AI が急速に進化しています。その代表例として、チャット GPT を挙げるができます。一昨年に使い始めてみて、その能力に驚きました。ところが、それがどんどんと進化して、もはや生成 AI という呼び方が正しいのか分からない程に出来る事が多様化しています。今なお、さまざまなユーザーが、新たな使い方を模索して、その可能性の幅を広げています。これが2年強の期間での変化ですから、これからのテクノロジーの進化は、さらに加速していくと思います。(ちょっと恐ろしさも感じています。)その影響は、これから社会に出て歩み始める皆さんにも及んでいきます。そして、さらに先の未来を生きる子どもたちは、もっともっと影響を受けることでしょう。皆さんに未来と託したいと思います。どうか力強く、未来に向かって歩いてください。そして、次世代を生きる子どもたちの育成をよろしく願います。</p> <p>テーマ②の「領域「環境」のねらいの達成のためや、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(いわゆる 10 の姿)」に描かれた姿のうち領域「環境」に関連が深い姿に子どもを育成するためには、どのようなことを配慮すればいいか」に関しては、領域「環境」の視点から、皆さんにこの授業を通じて伝えたかったことを、振り返ってもらうために設定した課題でした。これからの子どもたちには、質の高い保育・幼児教育が求められていると思います。少しでも、記憶に残して頂き、保育実践の場に活かしていただければと切望しています。</p> <p>自由記述に関して、演習を楽しんでいただけたこと、またグループワークを通じて自ら考える力を伸ばせたことなどが書かれていました。とても嬉しく思います。4年間の学びが今後の成長につながることを願っています。</p> <p>いろいろと書いてきましたが、皆さんのご活躍を心より願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもの歯と健康				
担 当 者	吉田幸恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.1	4.1	4.2	4.2	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>専用器具で自らの口腔の観察したり、離乳食を食べる体験を通して、口腔の構造や機能を学習しています。また、学童・生徒の口腔健診票の読み方を例題を通して学習することで、口腔の疾患や予防方法を理解するなど、体験型の授業を多く実施していますが、その点が良かったと評価していただいているのでこのまま継続したいと思います。体験時のメンバー構成や課題の提出方法などについてご意見があった点は改善する方向で修正します。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	教育心理学				
担 当 者	柳原 利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.1	4.1	4.2	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>ほとんどの人がスマホを触っているという意見がありました。昨年もこのことが気になっていたために、今回の授業から配布資料を穴埋め形式のプリントを作成して授業を進めました。大教室の講義形式であっても、個人作業にはなりますが、みなさん自身が書くことを通して、授業を聞き進めていただきたいという思いでしたが十分ではなかったようです。他の意見では、スライドやプリントが見にくいという意見もありました。書くスペースを十分にとったつもりでしたが、今回初めて形式を変更したこともあり、次年度様子を見ながら変えていくことも検討したいと思います。さらに、授業中に顔をあげてほしいという意見もいただきました。おそらく教卓上のモニタを見ていることからこのような声が上がったのかと思います。スクリーンも見ながら話し進めることを意識して、注意をしたいと思います。</p> <p>また、教員採用試験を意識して講義をしているため、心理学の専門用語や研究者名など小テストや定期試験でも出題しました。教員採用試験での教育心理の範囲の出題割合は少ないですが、それだけに基礎的などころはきちんと正解を導いてほしいと思っています。保育・幼児教育コースの方には発達領域については、3年生の「保育の心理学」や「発達心理学」でさらに詳しく学ぶ機会がありますので、楽しみにしててください。義務教育コースの方には、今後同じような内容で、私が担当する授業はありませんが、教員採用試験を受ける予定の人は、過去問を解くなどして、定期的に各回の復習をしておいてくださいね。</p> <p>ご意見ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもの理解と援助				
担 当 者	柳原 利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.3	3.8	3.9	4.0	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>クラス別のカテゴリー別平均値は、Aクラス：3.3, 3.9, 3.9, 4.0, 4.0 / Bクラス：3.3, 3.6, 3.9, 4.0, 3.9であり、クラスによる回答の傾向に大きな違いはありませんでした。ただ、出席状況を振り返ると、Bクラスの欠席が多くみられました。4限だったこともあるのでしょうか？はっきりとした理由がわからないままでした。この科目では毎回の授業の中で、事例を出しながら保育者となるために、誰のどのような気持ちにアンテナを張る必要があるのか、ということを考えてもらえるように進めていったつもりです。みなさんの意見をお聞きする形でひとりずつ質問しましたが、自由記述を見ると、そのせいで睡魔に負けずに頑張れたという方もいたようです。来年からは本格的な実習が始まります。是非いろんな人の視点に立って観察し、保育に活かせるようになってほしいと思います。</p> <p>ご意見ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容(人間関係)AB				
担 当 者	鍋島恵美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
学生へのメッセージ					
<p>いろいろな気づきの評価を寄せてもらい感謝しています。初めて出会う神戸常磐大学2回生の皆さんにとって「人間関係」という保育内容の一つの学問と一緒に学びあえた貴重な時間でした。実践経験のある私から「こどもはおもしろい」「保育は楽しい」というメッセージが届いていたならうれしいです。みなさんが、学びの結びに「わたしの物語」に綴っていたことは、みんなそれぞれの個性が光っていました。「一人一人違っていい」「ありのままのわたし」「私の好き」を探究しつつ、人とのかかわりの中で成長してほしいと願っています。皆さんからいただいた評価、深く受け止めて、次年度出会う学生の皆さんと新たな授業を構築していきます。学内で出会ったら声をかけてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	化学概論				
担 当 者	笠井亮				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.9	4.9	4.8	4.9	
学生へのメッセージ					
<p>最初に〔私自身のこの講義の到達目標〕を次のように書きました。</p> <p>すべての講義が終わったとき、多くの学生さんに、「化学は楽しいものだ」「化学は社会とつながっているんだということを、実感を持ってもらいたい」と書きました。この「目標」が実現できたかどうか気になっていました。</p> <p>みなさんの感想を読みましたが、どうやら化学に親しみを持ってもらえたようでうれしかったです。まだ先ですが、ぜひみなさんが教師なられたら、子どもたちと楽しく授業を楽しんでください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容（音楽表現）				
担 当 者	村上郁子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.4	4.4	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>音楽の楽しさを感じて欲しい。 自分が感じた楽しさを伝えて欲しいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもの健康と安全				
担 当 者	唐木 美喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.2	4.1	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>なぜ、1 限目？と思った人も多かったと思います。遅刻せずに出席できたことに拍手を送ります。よく頑張りました。</p> <p>皆さんは、いつも真面目に課題に取り組み、とても熱心に講義を聞き、質問にも一生懸命考えて答えてくれている姿勢にいつも感心していました。分からないところや解釈に悩むところを聞きに来てくれる人も、今までになく多かったので頼もしく思いました。とても楽しい毎日が送れたことに感謝しています。</p> <p>私は毎回の3つの質問の回答をとっても楽しみにしています。質問の回答でディスカッションができれば、もっと面白かったと思います。年々、答えの様相が変わってくるので、時の変化に驚いたりもしました。楽しい回答をありがとうございます。</p> <p>教科書の内容だけでは、全てが伝えられないと思い、資料を足していった結果、毎回、内容が多い演習となってしまいました。しっかりついてきてくれたことに感謝しています。子どもに関わる仕事を目指す人には、知っておいてほしいことがたくさんあり、この演習ではまだまだ伝えきれっていません。後は、君たちがこれからの授業の中で積み重ねてほしいと思っています。包帯法の実習や心肺蘇生法の演習、沐浴実習と実際に実習で学ぶことも多かったのではないのでしょうか。いじめや虐待のロールプレイ、保健計画作成など班での話し合いも実りあるものになったと思います。</p> <p>子どもと大人は違います。子どもには無限の可能性があると思っています。その子どもにかかわる仕事を選んだことに自信を持ってください。子どものことを知れば知るほど幅広く奥深い知識が必要になってきます。子どもは日々関わる教師の影響を全身で受け止め、それを大人になってもよく覚えています。大きな可能性を秘めている子どもの全てに興味をもち、子どものことをよく知って、子どもに寄り添い、育み、適切な対応ができる保育士になってほしいと願っています。</p> <p>膨大な資料は、教科書と共に見てもらえるよう配布しました。今度は、君たちが教える立場を目指して進んでいくわけですから、どんな保育者になり、どんな子どもを育てたいかをしっかり</p>					

り持って頑張ってください。

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	音楽ⅡAB				
担 当 者	山崎祥代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.6	4.7	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>大学に入って初めてピアノに触ったという人も沢山おられましたが、一年間で経験者以上に上達した学生さんもおられて嬉しく思っています。ピアノは練習したからといって、すぐに結果が出るものではありませんが、毎日少しの時間でも練習を積み重ねていくと必ず報われるということがわかってもらえたと思います。</p> <p>次年度、義務教育コースの方たちは個人レッスンという形の授業はなくなってしまいますが、せっかくここまで弾けるようになった技術をキープできるよう、これからも自学自習を続けましょう。特に、カデンツを用いた簡易伴奏の付け方は覚えておくに必ず役立ちますので、復習しておいてくださいね。何か聞きたいことがあれば、いつでも質問を受け付けます。</p> <p>保育・幼児教育コースの方たちは、次年度も引き続き個人レッスンがあります。今よりも更に表現力豊かな演奏・子どもたちの様子を見ながらの余裕を持った弾き歌いができるよう、練習に励んでください。また皆さんの演奏を聴かせてもらうのを楽しみにしています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	図画工作Ⅱ				
担 当 者	藤本由佳利				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.1	4.7	4.7	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>よい評価をありがとうございます。</p> <p>1年間、欠席も少なくよく頑張られました。</p> <p>その姿勢を維持して、ご自身の基盤を作られることを期待しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容（造形表現）				
担 当 者	.山成昭世				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	3.9	3.5	4.1	3.8	
学生へのメッセージ					
<p>シラバスには授業計画を記載し、第一回目の授業で具体的に 1 回～15 回の授業内容を記載したプリントを配布している。内容の順番の入れ替えや皆さんの進み具合を見て授業数を増減はその都度、皆さんには伝えている。</p> <p>多くの学生さんはキチンとされていますが、内容が十分に理解できない、何を言っているのかわからないとの記載があったが、本時の授業の教科書該当ページをホワイトボードに示している。副教材としてもプリントも配布している。予習や復習で教科書を読んでおくことなどの指示もしている。授業の最後には質問がある人いませんかとの投げかけもしているが質問はない。他教科の授業でもいえることだが主体性を持ち大学生としての学びをしているのだろうか。そここのところを問いたい。教科書の購入をしていない人も多く見受けられる。</p> <p>休むことが自己責任のように感じて休めない。あとの対応が冷たい。とあるが自己責任ではなく自己管理です。休んだ人については一堂に集めて説明し休んだ日のプリントや材料も与え内容説明はしている。休んだ人のスケジュールに合わせて授業は計画していないので各自が休んだ授業の管理をしてください。</p> <p>山成は 11 時 30 分過ぎにはこの部屋にいるので質問のある人や作業をしたい人は来てくださいと投げかけている。休んだ日の課題を昼休み時間を利用し取り組んでいる学生さんもいるので、これらの時間を活用するなどの工夫が必要である。</p> <p>山成の発言できついとあるが、この点については山成自身が注意したいと思う。</p> <p>山成の対応で嫌な気分になったとありましたがそのような気にさせたならそのようなことがないよう今後注意したい。</p> <p>当該学生ではないと思うが、携帯を常に見ている人が多々見受けられる。注意するとすぐに引っ込めるが 10 秒後には出してみている。このような状態が前期から改善されることがなかった。山成は大学生の授業がこのような状況であることが情けない。双方嫌な気分にならないように心がけたい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容（造形表現）B				
担 当 者	山成昭世				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.3	4.0	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>シラバスには授業計画を記載し、第一回目の授業で具体的に 1 回～15 回の授業内容を記載したプリントを配布している。内容の順番の入れ替えや皆さんの進み具合を見て授業数を増減はその都度、皆さんには伝えている。</p> <p>多くの学生さんはキチンとされていますが、内容が十分に理解できない、何を言っているのかわからないとの記載があったが、本時の授業の教科書該当ページをホワイトボードに示している。副教材としてもプリントも配布している。予習や復習で教科書を読んでおくことなどの指示もしている。授業の最後には質問がある人いませんかとの投げかけもしているが質問はない。他教科の授業でもいえることだが主体性を持ち大学生としての学びをしているのだろうか。そこを聞きたい。教科書の購入をしていない人も多く見受けられる。</p> <p>休むことが自己責任のように感じて休めない。あとの対応が冷たい。とあるが自己責任ではなく自己管理です。休んだ人については一堂に集めて説明し休んだ日のプリントや材料も与え内容説明はしている。休んだ人のスケジュールに合わせて授業は計画していないので各自が休んだ授業の管理をしてください。</p> <p>山成は 11 時 30 分過ぎにはこの部屋にいるので質問のある人や作業をしたい人は来てくださいと投げかけている。休んだ日の課題を昼休み時間を利用し取り組んでいる学生さんもいるので、これらの時間を活用するなどの工夫が必要である。</p> <p>山成の発言できついとあるが、この点については山成自身が注意したいと思う。</p> <p>山成の対応で嫌な気分になったとありましたがそのような気にさせたならそのようなことがないよう今後注意したい。</p> <p>当該学生ではないと思うが、携帯を常に見ている人が多々見受けられる。注意するとすぐに引込めるが 10 秒後には出してみている。このような状態が前期から改善されることがなかった。山成は大学生の授業がこのような状況であることが情けない。双方嫌な気分にならないように心がけたい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	社会的養護Ⅱ				
担 当 者	井出沙里				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>みなさんと共に学べた時間は、大変有意義なものでした。</p> <p>現代の子どもを取り巻く社会環境の厳しさは周知の通りであり、中でも児童虐待は深刻化の一途を辿り、社会的養護の機能、役割がますます重要となってきます。</p> <p>子どもの生活基盤を安定させ発達、成長の保障する社会を実現するための役割は保育者が担っています。</p> <p>その喫緊の課題と重要性を認識しながら、今後の学修と研鑽を続け、子どもに対する専門的支援を提供する立場としての社会的役割を有する専門職集団として共に関わっていただけることを願っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもと言葉				
担 当 者	多田琴子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	4.5	4.4	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>受講学生の皆さんからコメントをいただきました。少し要約して列挙します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① グループでの模擬保育で大変だったが計画力と実践力を身に付け達成感があった。 ② グループで協働的に実践活動を行うことができた。 ③ 模擬保育後の反省が具体的で分かりやすく、知識になった。他の授業の模擬保育の反省はここまで詳しくない。 ④ 頑張ったことをたくさん褒めて評価されたので最後まで一生懸命に頑張れた。 ⑤ 実践とその後のフィードバックがしっかりあってよかった。 ⑥ 一気にいろんなことが課題になったので大変だった。 <p>上記のことから、皆さんがグループで真剣に模擬保育に臨んだことが伝わってきました。授業中に作成した成果物で模擬保育を行ったので、作ったものを実践にどのように使うかが体感できたと思います。グループで作成した成果物のほとんどを保存しています。実習等で使用したい場合は、多田(k-tada@kobe-tokiwa.ac.jp)に申し出てください。貸出できます。つまり、誰にでも貸出できるほどクオリティの高い成果物を協働で作成することができたということです。素晴らしい。皆さんの成果物に授業担当として満足しました。</p> <p>皆さんは、保育者を目指しています。子どもの前に立つ人になります。子どもの前に立つときは、今回の模擬保育で学んだように、妥協せずしっかり準備(環境を整え、シミュレーションを納得するまで行い、その前に対象年齢の発達段階をおさえ、目の前の子どもの要求や状況に合う)を行いましょう。</p> <p>多田は保育者の先輩ですから、幼児教育保育についてでしたら何時でも応答いたします。素晴らしい保育者になる道が開かれています。自己研鑽をこれからも積んでいきましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子ども家庭支援の心理学				
担 当 者	渡邊恵梨佳				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	4.2	4.2	4.1	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>学生の皆さんは熱心に出席して受講していただいております。しっかり話も聞いてくれており、提示した課題についてもそれぞれがきちんと取り組んでくれました。話が単調になっていた部分もあったかと思いますが、私の講義や話の中で何か少しでも皆さんの心に残って、保育者として働き始めてからでも、リンクする部分があればと願っております。半期の間でしたがありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもと音楽表現				
担 当 者	曲田映世				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
学生へのメッセージ					
<p>様々な音楽表現遊びを中心により多く体験していただけるように実施してきました。皆さんが楽しみながら取り組んでいただいていた姿が印象的でした。いただいたご意見を参考に今後につなげていきたいと思っております。ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教科教育法図画工作				
担 当 者	平井眞由美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>学生の皆さんが図画工作科の大切さをわかっていただけたらと授業しました。人生の中で大事な体験になれば幸いです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	家庭				
担 当 者	松井奈津子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	4.2	4.1	4.2	3.9	
学生へのメッセージ					
<p>教員として指導に当たるためには、各自が健康であること、家庭生活や社会に関心を持ち主体的に生活することが必要です。高い意識を持って、授業に臨んでください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教科教育法（生活）				
担 当 者	松井奈津子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
3.8	4.0	3.9	4.2	3.7	
学生へのメッセージ					
<p>教科指導法の授業は、授業の準備や発問、板書など具体的に学ぶことが大切です。教員として、何を求められているのか、何を身に付けなければならないかを意識して 指導力を高めてください</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教科指導法（音楽）				
担 当 者	瀬川和子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4	4.6	4.7	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>今年度は受講者が16名でしたので、4人1組、4グループに分けての活動を取り入れました。学生の皆さんは目的意識も高く、積極的に参加し、熱心な受講態度であったと思います。その結果、授業には意欲的に参加していましたが、担当外の回では授業以外の学修が不十分であったようです。授業時には各自が意見も述べ、探究する姿勢が見られ、授業形成も協力的でした。授業評価調査の自由記述欄に、改善点として授業内容の説明を要望する声がありました。授業時間内に問われた質問にはその場で回答し全員で共有するように努めました。時間が経ってからの、不十分な理解内容についても前回内容の確認時間を設けることで理解を徹底したいと思います。</p>					